

平成24年10月31日
中国電力株式会社

平成24年度第2四半期決算記者会見 社長あいさつ

お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、「平成24年度第2四半期決算」について発表させていただきます。

詳細は、後ほど担当役員からご説明しますので、私からは概要をお話しさせていただきます。

<平成24年度第2四半期決算の概要>

まず、このたびの第2四半期決算につきましては、連結、個別ともに「増収・減益」となりました。

売上高につきましては、販売電力量が減少したものの、燃料費調整制度の影響や、他の電力会社への販売電力量が増加したことなどから、連結ベースで、前年同期に比べ379億円の増収となりました。

一方、経常損益は、経営全般の効率化に努めたものの、島根原子力発電所1、2号機の運転停止等による原料費の増加などから営業費用が増加し、連結ベースで、前年同期に比べ260億円の減益となりました。

<平成24年度業績予想>

平成24年度の通期業績予想については、現時点では引き続き未定とさせていただきます。原子力政策や下期の融通送電量を含めた需給の動向を見極めたうえで、お示ししたいと考えています。

<夏冬の需給>

次に、電力需給についてお話しします。

まず、今年の夏につきましては、需要面では、お客さまに節電にご協力いただいたこと、供給面では、総動員・フル稼働の体制で臨んだ各発電所が、大きなトラブルもなく、順調に稼働できたことなどから、安定して電力をお届けすることができました。

節電にご協力いただきました多くのお客さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年の冬の電力需給につきましては、既にお知らせしておりますとおり、需給状況が厳しい他の電力会社への融通送電を織り込んでも、一定の予備力は確保できる見通しです。

しかしながら、実態としては、現在、冬に向けて各発電所で短期集中的に設備の補修点検を行っている状況であり、今年の夏と同様に、経年火力発電所の高稼働を織り込ん

で供給力を確保していることから、設備的に余裕がある状況とはいえません。

また、全国的には、一部地域で電力需給が厳しい状況にありますので、お客さまには引き続き、省エネルギー・省電力に努めていただきたいと考えています。

当社としては、今年の冬もお客さまに安定して電気をお届けできるよう、供給力の確保に万全を期してまいります。

<島根原子力発電所>

続きまして、島根、上関原子力発電所の状況についてお話しいたします。

まず、島根原子力発電所につきましては、福島第一原子力発電所の事故を踏まえた様々な安全対策を着実に進めるとともに、免震重要棟やフィルタ付ベント設備などの更なる信頼性向上対策についても、できるだけ早期の設置を目指して鋭意取り組んでいるところでございます。

現在、原子力規制委員会において、新たな安全基準の策定が進められておりますが、当社としては、新たな基準に適切に対応していくことはもちろんのこと、これを先取りする形で自主的に取り組みを進めてまいりたいと考えています。

<上関原子力発電所>

上関原子力発電所につきましては、皆さまにもお知らせしておりますとおり、先日、公有水面の埋立に関する設計概要変更および工事竣功期間の延長について、山口県への申請を行いました。

今回の申請については、直ちに準備工事を進められる状況にはないものの、当社として、中長期に亘る電力の安定供給等に向けて上関原子力発電所が重要な電源であるとの思いは変わらず、現状を維持しながら、政府の検討を見守っていくことが必要であると考え、申請を行ったものです。

延長申請にあわせ、津波対策に万全を期すための設計変更も申請いたしましたが、今後の原子力発電の利用・開発に当たっては、安全性の確保が大前提であり、こうした具体的な安全対策をお示ししながら、ご説明を行っていくことで、一人でも多くの皆さまから、上関原子力発電所の建設に対するご理解をいただけるよう、引き続き努めてまいりたいと考えております。

<最後に>

最後になりますが、連結・個別ともに経常損失および個別では3年連続の減益という今期決算に現れておりますとおり、当社を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況にあります。当社としては、設備投資、資材や燃料の調達など、あらゆる面での経営効率化を進め、徹底したコスト低減に取り組むことにより、できる限り現行の料金水準を維持し、お客さまのご負担を増やすことのないよう努めてまいります。

以 上